

平成 23 年度事業報告

平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

I. 事業の状況

1. 定期講演会の実施

定期講演会については、本年度は以下のように実施した。

・会場	全国 8 カ所
・開催回数	70 回
・来場者総計	2,386 名
・収入	1,392 千円
・支出	8,892 千円

定期講演会 8 会場の詳細は次のとおり。

①東京会場（原則として毎月第 2 及び第 4 土曜日午前 10 時より大手町ビル 513 号室）

・実施回数	20 回
・来場者	1,344 名

（以下敬称を略します）

4 月 9 日 高史明

危機の時代と個の腰の据えどころ

4 月 23 日 福田亮成

本当の終活について

5 月 14 日 丘山新

梵天勧請—お釈迦さまは、なぜ教えを説きだしたのか

5 月 28 日 乗元恵三

アメリカ佛教を拓いた人たち

6 月 11 日 蓑輪顕量

心を見つめ、心のみがく—仏教の瞑想のめざしたもの

6 月 25 日 菅原伸郎

仏法はありがたいか

7 月 9 日 木村清孝

心をつなぐ

7 月 23 日 菅沼晃

心清浄の力—維摩経によって考える

9 月 10 日 西田正法

一言葉の乱れた今—愛語を学ぶ

9 月 24 日 竹村牧男

日本的靈性について—日独文化交流 150 周年によせて

10 月 22 日 ケネス田中

信ずる宗教から目覚める宗教へ—先進国で伸びる仏教の魅力

11 月 5 日 中野東禪

「あの世」を安らぎにする「念」をもとう—「正法眼蔵」でみる死に方学—

11 月 12 日 金光寿郎

心の風景

11 月 26 日 横山紘一

玄奘三蔵への報恩行—『唯識 仏教辞典』を上梓して

12 月 10 日 近田昭夫

今こそ、仏法を頂きましょう

1 月 14 日 奈良康明

無常を観る

1 月 28 日 西來武治

高僧に学ぶ仏教健康法

2 月 25 日 本多静芳

親鸞さまの手紙に見られる災害と信心

3 月 10 日 馬場昭道

都市開教 お—い、お寺が生まれるぞ

3 月 24 日 島菌進

悲しみの容れものとしての仏教

②大阪会場（原則として毎月第 4 金曜日午後 3 時より堂島アバンザ 14 階）

・実施回数 10 回

・来場者 344 名

4 月 22 日 西村恵信

いのちの音を聴く

5 月 27 日 奈倉道隆

移り変わる現代の生活と仏道—健康と自己実現を求めて

6 月 24 日 西山厚

女性と仏教 いのりとはほほえみ

7 月 22 日 水谷幸正

生かされて

9 月 22 日 真城義麿

宗教なき時代の閉塞

10 月 28 日 中西智海

釋尊の基本説教と親鸞聖人の浄土真宗

11月25日 池見澄隆
あの世とこの世ー冥界・異界・顕界
1月27日 山田法胤
次代への転依
2月24日 小林隆彰
「光明遍照」との出会い
3月23日 上田閑照
人間として生きるということ

③名古屋会場（原則として毎月第3水曜日午後1時30分よりCRD丸の内ビル9階）

・実施回数 9回
・来場者 242名

4月20日 松平實胤
命よりも大切なもの
5月18日 田代俊孝
光の中の「悪人」ー阿闍世の救いー
6月15日 亀井 鑛
世界を霽かす（みはるかす）念仏
7月20日 青山俊董
光に導かれて
9月21日 台風接近のため中止
10月19日 衣斐弘行
禅的「歎異抄」ー親鸞聖人七百五十年遠諱に因んで
11月16日 赤池憲昭
「葬制」の移行の意味するものー日本の現状に寄せて
1月18日 田辺和子
タイに流布しているジャータカ
2月15日 立川武蔵
仏像と仏塔ーインド・チベットの仏教史からー
3月21日 林淳
井上円了と清沢満之

④福岡会場（原則として毎月第4金曜日午後3時より福岡センタービル9階）

・実施回数 10回
・来場者 196名

4月22日 藤本至誠
利他円満の仏に・・・
5月27日 平兮宗賢

禅語を人生に活かす

6月24日 菊城淳真
法然聖人と親鸞聖人
7月22日 神原玄應
比叡山への誘い
9月22日 藤岡正英
押され引かれて（二河白道）
10月28日 小山一行
大乘の至極
11月25日 大江憲成
大災害に苦悩する人々へ（親鸞からのメッセージ）
1月27日 田畑正久
日本社会の医療文化と仏教文化
2月24日 太田心海
親鸞聖人の伝記
3月23日 武内英真
我が過ちはそれに勝れりー父を語る

⑤防府会場（原則として毎月第2水曜日午後1時30分より防府市地域協働支援センター2階）

・実施回数 8回
・来場者 79名

4月13日 林寛孝
阿吽の心に学ぶ
5月11日 中村棟俊
老後を生きぬく力
6月8日 香川孝志
在家仏教ーこの世に於ける真実の宗教ー
7月13日 小林正純
般若心経について
9月14日 一万田良哲
”安らぎへの大道”ー他力本願と本願他力のすくいー
10月12日 森江俊孝
「一日の身命を尊ぶ」ー無縁社会から有縁社会を見つめて
11月9日 橋本隆道
山頭火の俳心
3月14日 児玉識・島田教明
明治維新と仏教ー長州藩の場合

⑥宇部会場（原則として隔月第2金曜日午後1時30分より宇部市文化会館ほか）

- ・実施回数 5回
- ・来場者 84名

5月13日 有福孝岳
慈悲と智慧—観世音と観自在

7月8日 波佐間正己
親鸞聖人の魅力

9月9日 木村隆徳
文明から文化へ—椅子坐禅のすすめ—

11月11日 児玉識・島田教明
種田山頭火と仏教

3月9日 一万田良哲
今、何をするか…何が出来るか

⑦札幌会場（原則として隔月第3金曜日午後3時より
札幌パークフロントビル4階）

- ・実施回数 5回
- ・来場者 57名

5月20日 乗元恵三
アメリカの死、日本の死

7月15日 高畑俊孝
葬儀について—仏教が取り組む葬儀の意味と意義

9月16日 金石晃陽
ただ一筋の道—水河、火河の只中で

11月18日 巖城孝憲
よきひとのおおせ

3月16日 藤井教公
永遠の仏—『法華経』と『涅槃経』より—

⑧仙台会場（原則として3カ月毎第2金曜日午後2時
より仙台橋本ビル9階）

- ・実施回数 3回
- ・来場者 40名

4月8日 大震災の影響により中止

7月8日 佐々木邦世
「平泉」とはなにか

10月14日 高橋哲秋
尽十方界 真実人体

1月13日 華園聰磨
東北の観音霊場めぐりと祈り
～会津・最上・津軽の事例から～

2. 各種行事の実施

各種行事については、本年度は下記の行事を実施した。

遠州三山と修禅寺を訪ねる旅

平成23年6月1日～2日 参加者28名

在家仏教坐禅の会

平成23年11月11日

曹洞宗大本山總持寺。参加者30名。

3. 出版物の刊行

出版物の刊行については、本年度は以下のように実施した。

・収入	11,671千円
・支出	28,459千円

①月刊誌『在家佛教』

毎月1回発行、A5判100頁

▼平成23年5月号

渡邊寶陽	アート「法然 生涯と美術」京都国立博物館
山崎龍明	仏教精神を生きた先人への畏敬
岡野潔	親鸞浄土教のダイナミズム
田代俊孝	遥かなるインドの夢
黒川文字	『唯信鈔文意』に学ぶ—加藤辨三郎師に導かれて—
森俊英	四季の仏教行事 早春 長谷寺のただおし
乗元恵三	心の話
石上善應	仏教僧が見た戦時抑留所生活（下）
菅原伸郎	東司の仏さま
野呂昶	病床の聞法
富田富士也	いのちのほほえみ しょうじょうばかま
奈良康明	人に子どもに”光”あれ（5）
神田忠	親と子でしみじみとした時間をとりたい若者
加藤辨三郎	ブツダ最後の旅をたどる（26）四大霊場と葬儀の教え
内藤喜八郎	俱律究（30）大震災の復興支援
	在家仏教協会の旗じるし
	加藤辨三郎・言葉抄
	今月の表紙・一つのいのち
	おぼえよう となえよう

▼平成23年6月号

アート「黄檗—OBaku 京都宇治・萬福寺の名宝と禅の新風」九州国立博物館

信楽香仁 すべてのいのち輝く世界をめざして
 西村玲 赤い旗
 松竹寛山 わが師 指月庵 野々村玄龍老師のこと
 菊城淳真 仏教の看取り
 形山睡峰・金光寿郎 やわらかな心
 大菅俊幸 仏教ボランティアの現場から
 東北の可能性を開く〈風〉になって
 中村元 アーカイブス 仏法僧
 菅原伸郎 天罰と宿業
 石上善應 法然の遺跡
 野呂昶 いのちのほほえみ 雪ノ下
 富田富士也 人に子どもに”光”あれ(6)
 「ただ聞き合う」ことに気づいた母親
 奈良康明 ブッダ最後の旅をたどる(27) 仏塔崇拝の意味
 神田忠 俱律究(31) 震災時にスマートフォンでできたこと
 加藤辨三郎・言葉抄
 内藤喜八郎 今月の表紙・大河メコンの声
 おぼえよう となえよう

▼平成23年7月号

アート「空海からのおくりもの 高野山の書庫の扉をひらく」印刷博物館
 小野寺功 新しい出会いの世紀へ
 岡田真美子 震災後タイ国で考えたこと
 森俊英 心のふれあい
 菅沼晃 明治期の新仏教運動に学ぶこと
 赤池憲昭 心の行方
 増谷文雄 アーカイブス 無常と無我
 野呂昶 いのちのほほえみ ふたりしずか
 菅原伸郎 良寛の手紙
 富田富士也 人に子どもに”光”あれ(7)
 親の”命日”に気づいて素直になった青年
 奈良康明 ブッダ最後の旅をたどる(28) アーナンダへの別れの言葉
 神田忠 俱律究(32) 海外の寺院、海外仏教の日本寺院
 加藤辨三郎・言葉抄
 内藤喜八郎 今月の表紙・山を焼く畑の中で
 絵てがみによせて(1)
 おぼえよう となえよう

▼平成23年8月号

アート「出羽三山と山伏-はるかなる神々の山をめざして
 島菌進 諸宗教が協力して復興支援
 吉野恵子 故郷を守る
 河村公昭 仏教における正信について
 藤岡正英 念仏の功德
 小山一行 出離生死の道
 岡田真美子 草木国土のいのち
 加藤辨三郎 努力について
 石上善應 五百羅漢
 菅原伸郎 虚空に祈る

野呂昶 いのちのほほえみ はっか草
 富田富士也 人に子どもに”光”あれ(8)
 親に言えないこだわりを灯油で燃やそうとした少年
 奈良康明 ブッダ最後の旅をたどる(29) 最後の弟子スバダを導く
 神田忠 俱律究(33) 躍進するアンドロイド端末
 支援の輪
 内藤喜八郎 今月の表紙・大河のすがた
 絵てがみによせて(2)
 おぼえよう となえよう

▼平成23年9月号

アート「天竺へ 三蔵法師3万裡の旅」奈良国立博物館
 聖菩提樹に詣でて
 前田専學 世のいのりにこころいれて
 酒井義一 新潟発、良寛の顕彰
 加藤僖一 往くも還るも仏力である
 中西智海 『般若心経』について
 立川武蔵 アーカイブス 輪廻から解脱へ(1)
 早島鏡正 ゴータマ・ブッダ国際平和賞
 石上善應 菅原伸郎 元の木阿弥
 野呂昶 いのちのほほえみ ときめくレモン
 富田富士也 人に子どもに”光”あれ(9)
 人を敵味方に分けて「死にたい」を口にする女性
 奈良康明 ブッダ最後の旅をたどる(30) 真の宗教とは
 神田忠 俱律究(34) フェイスブック 本格普及の兆し
 大菅俊幸 仏教ボランティアの現場から(20)
 悲しみと祈り 被災地に絵本を届ける末盛千枝子さん
 加藤辨三郎・言葉抄
 内藤喜八郎 今月の表紙・深いまなざし
 絵てがみによせて(3)
 おぼえよう となえよう

▼平成23年10月号

アート「大雅・蕪村・玉堂と仙崖 笑いのこころ」出光美術館
 高崎直道 天災と人災
 石上和敬 法友をもとめて
 本多静芳 信心の生活～「仏壇の論理」と「台所の論理」～
 丘山新 出会いについて
 松岡誠一 東日本大震災 御仏像の応急修復ボランティア活動報告
 加藤比呂人 書評 釈尊の教えを現代に生かすには
 早島鏡正 アーカイブス 輪廻から解脱へ(2)
 野呂昶 いのちのほほえみ 眠りの小径
 菅原伸郎 続・天罰論
 大菅俊幸 仏教ボランティアの現場から(21)
 亡き魂への思い-大震災が喚起する古くて新しい宗教心
 富田富士也 人に子どもに”光”あれ(10) 「みやげ話」をやめた若者
 奈良康明 ブッダ最後の旅をたどる(31) スバダの教化
 神田忠 俱律究(35) アップル人気の秘密
 加藤辨三郎・言葉抄
 内藤喜八郎 今月の表紙・流れる河
 絵てがみによせて(4)

おぼえよう となえよう

▼平成 23 年 11 月号

奥田聖應	大学の秋入学
東ゆみこ	お釈迦さまのフットベース
名取芳彦	木魚縁起
佐々木邦世	「平泉」とは何か
池見澄隆	「浄土で会いましょう」—中世びとの死生—
黒川文字	四季の仏教行事 伊勢のかんこ踊り
内藤喜八郎	書評 師を慕い、編み続けた「本能の言」
早島鏡正	アーカイブス 輪廻から解脱へ (3)
野呂昶	いのちのほほえみ おおぼこ
菅原伸郎	被災地にて
富田富士也	人に子どもに”光”あれ (11) 母親の幸せを思い祖母と暮らす少女
奈良康明	ブツダ最後の旅をたどる (32) 釈尊最後の説法
神田忠	俱律究 (36) 国内旅行はインターネットでお得に 加藤辨三郎・言葉抄
内藤喜八郎	今月の表紙・二つの眼 絵てがみよせて (5) おぼえよう となえよう

▼平成 23 年 12 月号

瓜生津隆真	アート「円空 こころを刻む一埼玉の諸像を中心に—」 埼玉県立歴史と民俗の博物館
山下秀智	「少欲知足」の教え
皆川廣義	木村無相の行きついたところ
山田法胤	お釈迦さまの仏教
西原祐治・金光寿郎	お釈迦さまの生涯 (後編)
上沼雅龍	私の親鸞像
野呂昶	しあわせの「はひふへほ」
石上善應	いのちのほほえみ そこにあなたがいてくださることは
菅原伸郎	生の霊安室
富田富士也	正統と異端
奈良康明	人に子どもに”光”あれ (12) 不自然な夫婦関係の両親と区切りをつけたキャリア・ウーマン
神田忠	ブツダ最後の旅をたどる (33) 釈尊の入滅 俱律究 (37) はじめよう、Apple ライフ 加藤辨三郎・言葉抄
内藤喜八郎	今月の表紙・一本の道 絵てがみよせて (6) おぼえよう となえよう

▼平成 24 年 1 月号

山折哲雄	アート「梵鐘〜鐘をめぐるのがたり〜」鳥取市歴史博物館
阿辻哲次	親鸞の「一人」
峯岸正典	漢字の好き嫌い 宗教間対話という求道

信楽峻磨	どうしたら信心を開発できるか
石上善應	私の法然上人
渡辺章悟	誰でも読める般若心経
野呂昶	いのちのほほえみ あなたのほほえみは
菅原伸郎	無位の真人
富田富士也	人に子どもに”光”あれ (13) 「ママ、おかえり」に自らをも抱きかかえる”夜”の母親
奈良康明	ブツダ最後の旅をたどる (34) 釈尊の葬儀をめぐって
神田忠	俱律究 (38) 最新情報の検索テクニック／年賀状 加藤辨三郎・言葉抄
内藤喜八郎	今月の表紙・托鉢の行 絵てがみよせて (7) おぼえよう となえよう

▼平成 24 年 2 月号

小林隆彰	アート「仏像からのメッセージ 像内納入品の世界」 神奈川県立金沢文庫
大菅俊幸	韓国で実感した光明遍照
亀井鏡	東北とアジアのかけ橋として
菅原伸郎	世界を驚かす念仏
木村隆徳	仏法はありがたいか
加藤辨三郎	文明から文化へ—椅子坐禅のすすめ— アーカイブス 私と宗教
野呂昶	いのちのほほえみ だれだろう
石上善應	一百四十五箇條問答 (1)
奈良康明	ブツダ最後の旅をたどる (35) 遺体の火葬
富田富士也	人に子どもに”光”あれ (14) 弱さを隠さない”強さ”を伝えた父親
神田忠	俱律究 (39) 2011 年総括
内藤喜八郎	今月の表紙・眼にみえるもの おぼえよう となえよう

▼平成 24 年 3 月号

山田俊和	アート「琉球と袋中上人展」沖縄県立博物館・美術館
正木晃	平和と幸福に向かって
四衢亮	靈魂論のゆくえ
西村恵信	聞く宗教
養輪顕量	いのちの音を聴く
黒川文字	心を見つめ、心を見がく
菅原伸郎	四季の仏教行事 六波羅蜜寺の踊躍念仏 慟哭の背景
石上善應	一百四十五箇條問答 (2)
奈良康明	ブツダ最後の旅をたどる (36・最終回) 仏塔の建立
野呂昶	いのちのほほえみ 冬の朝
富田富士也	人に子どもに”光”あれ (15) 嫁であって娘にはなれない母親
神田忠	俱律究 (40) 足踏みする国内の電子書籍
内藤喜八郎	今月の表紙・河の流れのように おぼえよう となえよう 加藤辨三郎・言葉抄

▼平成 24 年 4 月号

	アート「高田本山の宝物と文化財展」パラミュージアム
野田大燈	寺院の農業経営
大住広人	写真を写真に撮って焚く
杉山昭二	慕古の心
田上太秀	おかげさまの心
石飛道子	幻のごとく化のごとく
菅原信隆・金光寿郎	迷いから目覚めへ
金子大榮	アーカイブス 存在と因縁
菅原伸郎	なぜ学ぶか
石上善應	一百四十五箇條問答（3）
野呂昶	いのちのほほえみ いちごのランナー
富田富士也	人に子どもに“光”あれ（16） 悔しさをやっと話せてつながった父と子
神田忠	俱律究（41）スマートフォンの通話は VoIP で
内藤喜八郎	今月の表紙・水底の見えない淵 おぼえよう となえよう 加藤辨三郎・言葉抄

東京大学附属図書館、筑波大学、駒澤大学、大正大学、立正大学、東洋大学ほかの大学研究機関
NHK、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、日本経済新聞、東京新聞、北海道新聞、西日本新聞ほかの報道機関

③仏教良書の推薦紹介

④在家佛教誌から他誌への転載許可

「今月の巻頭言 すべてのいのち輝く世界をめざして」

平成 23 年 6 月号 信樂 香仁

転載先『くらま 平成 23 年 8 月号』

「わが師 指月庵 野々村玄龍師のこと」

平成 23 年 6 月号 松竹 寛山

転載先『抜すいのつづり 71 号』

4. その他目的を達するために必要な事業

①海外の仏教徒との交流を深め雑誌および図書の交換

韓国円光大学

韓国佛教社

中国仏教協会

河北省佛協

ブラジル日本文化協会

ブラジル天理文庫

カリフォルニア仏教研究所

カリフォルニア東本願寺

シカゴ大学東アジア図書館

ザ・ワールド・オブ・インディア

ニューヨーク金剛菩提寺

カナダ禅蓮寺

②国公立図書館並びに大学図書館及び刑務所へ「在家佛教」誌を毎月寄贈

国立国会図書館、東京・京都・奈良・九州の各国立博物館

東京都・千葉県・神奈川県・埼玉各県の都立、県立、市立の各公立図書館